

小学生版

あたらしい児童書

NO. 309 2025. 7. 1

遠軽町図書館
遠軽町大通南4丁目
TEL42-3632
FAX49-2102

本が見あたらないときは、かかりの人に聞いてね。予約もできます。新しい本は他にもあります。
小初は1・2年、小中は3・4年、小上は5・6年をめやすにしてください。

『モンスターファミリー』 有田 奈央／作

・ぼくたち一家は見た目は人間だけど、本当はモンスター。モンスター界の王さまの命令で人間界に引っ越してきた。人間の男の子レオがなくなった形見のペンダントを一緒に探していると…。絵さがし、まちがいさがしも楽しめる本。(小初)



『図書館のぬいぐるみかします 3 ぼくのねがいごと』

シンシア・ロード／作

・図書館のぬいぐるみ<ブック・フレンド>になったユニコーンのキラリの願いは、ずっと住める家で、その家の子どものものになること。ある日、町に引っ越してきたばかりの女の子マヤに借りられますが…。(小初、小中)



『わかったさんのチョコレート』 永井 郁子／作絵

・わかったさんは車で、お得意さんの元へクリーニングを届けにいきます。ところが一転、チョコレートのおかしをつくることに!? レシピ付き。作家・寺村輝夫の世界を、永井郁子が受けついで物語と絵を描いた新シリーズ。(小初、小中)



『放課後ミステリクラブ 6 教室のとうめい人間事件』

知念 実希人／作

・教室のロッカーの上にあった作品が落ちて壊れた。犯人がいるはずなのに、その姿は見当たらず…。4年1組の辻堂天馬・柚木陸・神山美鈴、通称「ミステリトリオ」が動き出す! 作家・知念実希人による児童書本格ミステリ。(小中)



『こらしめじぞう 3 自由におしおきいたします』 村上 しいこ／著

・わざと知らないふりをするやつ、言葉で人を傷つけるやつ…。おじぞうさんに手を合わせ、ムカつく相手の名をとええと、代わりにこらしめてくれる!? こわくて面白い短編全3話を収録。(小中)



『小さな犬と緑の庭で』 堀 直子／作

・心菜は引越し先の家で、犬と一葉という女の子に出会い、「ここはハルとたくちゃんのうち」と言われる。最初は反発した心菜だが、家と庭を造った元大工のたくちゃんが急にいなくなり、犬のハルが庭で待ち続けていると知り…。(小中)



『しおりのカチューシャ』 草野 たき／作

・しおりは、同級生の神田くんずっとあこがれている小学4年生。ある日、神田くんのお姉さんがつけていたものと同じ(かもしれない)カチューシャをお店でつけたしおりは、色ちがいのカチューシャを買おうと決心しますが…。(小中)



『テトの旅』 なぎさこう／作

・テトは、小さなリーテの村に住む、小さな木こり。ある日テトは、「となりにあるミーデアの人の町に行ってみよう」と思った。ひとりで行けるのか、どれくらい日にちがかかるのかわからなかったけれど、旅を始めて…。(小中、小上)



『ふたりのソフィー』 ロイス・ローリー／著

・ある日、父と兄がナチスに連れ去られ、そのまま帰ってこなかった。「木」「テーブル」「本」3つのキーワードが封印を解く、77歳はなれた親友の記憶と共有の物語。(小中、小上)



『思いがけず、朝子ちゃん』 高村 有／作

・父親のいない莉子(小学6年生)、廃業した実家の旅館が廃墟にならないようメンテナンスを続ける晴臣(中学2年生)…。祖母の花屋を手伝う25歳の朝子と小・中学生5人との思いがけない出会いが織りなす、5つの物語を収録。(小上)



『探検! いっちょかみスクール 伝説の幽霊サーカス団編』

宗田 唯／作

・プロフェッショナル養成塾に、またまた怪しいメンバーが。やたらと運動神経抜群な着ぐるみ「ベロベロ」と、魔法少女を目指すユトリ、その保護者役の礼司は突如姿を消したサーカス団の謎にせまるが…。(小上)



『ミクとオレらの秘密基地』 真栄田 ウメ／作

・岩ちゃんたちの暮らす田舎町の小学校に、誰が何を言ってもニコリとも笑わない、転校生の女の子がやってきた。岩ちゃんと友だちの芝やんは、軽い気持ちで彼女を笑わせようとするが…。まっすぐに清々しい友情物語。(小上)



『消えゆく街の秘密の友だち』 鯨井 あめ／著

・人付き合いが苦手な小学校6年生の小晴は、1枚の地図を見つけた。それを開くといつのまにか「ふしぎの街」にいて、そこで男の子・ラッタッタと出会う。一緒に遊ぶうち、ラッタッタに心を開く小晴だったが…。(小上)



『ペンツベルクの夜』 キルステン・ボイエ／作

・誰もが待ち望んでいた終戦が、平和が、すぐそこまで迫っている夜、ドイツの小さな町で事件が起こった。14歳のマリーと、15歳の少年ゲオルクとグストル、それぞれの目には何が映っていたのか。史実に基づいた小説。(小初、中)



『そして砂漠は消える』 マリー・パヴレンコ／作

・ほとんどの生き物が砂漠に飲みこまれた世界で、残った木々を“狩り”、それを売って暮らす遊牧の民。木を“狩る”ハンターは男の仕事という掟をやぶって、少女サマアは一人旅立つ。孤独な闘いの果てに出会う、命と希望の物語。(小上、中)

